新規参入銀行の最近の動向

新規参入銀行の2003年９月末の状況

00年から01年にかけて，ネットやATMを中心に銀行業務に参入した４行の03年９月末中間決算をみると（第１表），預金残高が最も多いのはソニー銀行（3,193億円）であった。同行の預金のうち，外貨預金は前年同期から３倍増の933億円，また投資信託は128億円，住宅ローン554億円といずれも大幅に増加した。

預金口座数が最も多いのはジャパンネット銀行で，74万口座を獲得している。同行では，ヤフーオークション等での振込件数が，上半期は１か月平均約184万件となり，個人向けローンは前年同期の42億円から157億円に増加した。

イーバンク銀行は，高金利の定期預金のキャンペーンを行った結果，預金残高が前年同期の15倍の892億円に増加した。

アイワイバンク銀行（以下「アイワイバンク」）は，預金口座数や残高は少ないが，後述するようにセブンイレブン内に設置したATMの利用件数が急増している。

このように業務が拡大した結果として，各行とも経常収益は前年同期に比べて大幅に増加した。なかでも，アイワイバンク銀行は中間純利益が１億400万円となり，開業以来初めて中間期として黒字を計上した。同行は通年でも単年度黒字の見通しであり，新規参入銀行の銀行免許交付の条件であった「３期目の黒字化」を達成できるとみられる。その他３行ではイーバンク銀行の単月経常損益が03年12月に開業以来初めて黒字となったが，通年では同行も含め３行とも黒字化は難しい見込みである。

第１表　2003年9月末の状況

（単位　億円，口座）

	ジャパンネット銀行	アイワイバンク銀行	ソニー銀行	イーバンク銀行
開業	00年10月	01.5	01.6	01.7
経常収益	33.19	121.99	40.55	5.68
前年同期比増加額	16.40	77.49	17.72	4.75
中間純利益/損失	△10.72	1.04	△5.47	△20.64
預金口座数	74万	14万	23万	65万
預金残高（注）	1,341	257	3,193	892
前年同期比増加額	366	150	1,418	834

資料　各社の2003年9月末の中間決算資料より作成
（注）　アイワイバンク銀行は個人のみ。

アイワイバンクの動向

４行のなかで唯一単年度黒字化が見込まれるアイワイバンクでは，自行で利用者から預金を預かる一般の銀行業務のほかに，コンビニエンスストア内に設置したATMネットワークを提携企業に開放するATM事業を行っている。03年９月末の提携先は銀行，郵貯，信金，生保，証券，消費者金融会社，クレジットカード会社等の合計289社で，ATMの設置台数は，15都府県6,469台に拡大した。

アイワイバンクには，各提携先の顧客のATM利用件数に応じて，提携先から手数料が入り，開業当初から採算ラインは

ATM１台当たり１日70件と想定されていた。03年３月までは１日50件程度と利用が伸び悩んでいたが，春以降利用件数が急増し，９月に初めて70件を超えた。

コンビニATMの利用状況

アイワイバンク以外のATM運営会社も各コンビニエンスストア内にATMの設置を進め，業績を伸ばしつつあるといわれる。急速に設置が進むコンビニATMの利用状況を日経金融行動調査(注)の結果でみると，利用したことがある人の割合は，00年の9.8%から年々上昇し，03年には43.6%となった(第２表)。

利用経験者の割合は若い世代ほど高く，30歳未満の層では75.2%を占める。若い世代ほどではないが，高齢者層でも年々利用経験者の割合は高まっている。例えば70歳以上の層では00年には1.0%にすぎなかったが，03年には15.9%に上昇した。

また，利用頻度については，「よく利用する」の回答割合が02年の5.6%から03年には7.7%に，「時々利用する」が11.1%から12.5%に上昇した。特に30歳未満の層では，「よく利用する」の回答割合が高く21.1%を占めた。

以上のことを総合すると，コンビニATMを利用するのは若い世代が中心ではあるが，高齢層でも利用経験者の割合は徐々に上昇しており，利用者の裾野が広がっている。また，利用経験者のなかでも「よく利用する」という人が増えてきているとみられる。

第２表　コンビニATMの利用経験者の割合

（単位　%）

		利用経験者の割合			
		00年	01	02	03
全　体		9.8	19.7	36.1	43.6
回答者年齢	30歳未満	17.1	36.6	61.2	75.2
	30代	15.4	29.8	46.6	57.1
	40代	10.7	16.1	39.8	47.8
	50代	4.9	13.1	25.9	36.7
	60代	2.8	10.7	19.7	22.2
	70歳以上	1.0	6.7	11.1	15.9

資料　日本経済新聞社「金融行動調査」

(注) 日経金融行動調査は，日本経済新聞社が毎年10～11月に東京駅から40km圏内に住む25～74歳の男女5,000人を対象に実施。03年の有効回答者数は2,853人(回収率57.1%)。

おわりに

コンビニATMの設置台数や提携先が増加し，広告宣伝によって認知度も高まったことから，ATMの利用が進展し，アイワイバンクの収益も向上している。日経金融行動調査では，インターネットバンキングの利用経験者の割合は00年の2.8%から03年は12.6%に上昇したものの，コンビニATMほどには普及していないとみられる。ネットでの業務を中心とする他の３行に先駆けてアイワイバンクが黒字化することは，「お金をおろすならコンビニエンスストアへ」という行動が利用者に急速に広がっていることの現れであると考えられる。

アイワイバンクも含め，新規参入銀行が初期投資を償却し黒字基調を定着化させるためには，より魅力のある商品やサービスの提供を行うことが必要となろう。利用者の金融行動を大きく変えるような商品やサービスが生まれるかどうかが注目される。

(副主任研究員　重頭ユカリ・しげとうゆかり**)**